

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば(2ユニット合同)		
所在地	静岡県伊東市岡1293番地の3		
自己評価作成日	平成27年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_topjiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・今年4月よりDSと連携しパワリハ・陶芸教室・フラワーアレンジメント教室等参加し、時間と筋力低下予防に努めています。パワリハは認知にも効果があるとの事で、更なる入所者様もあり今後も連携しながら継続して行きたいです。
- ・入所者様の健康管理にも努めており、定期的に管理栄養士に献立表を確認し、職員全員で取り組んでおります。
- ・地域との密着へも今まで以上に取り組み災害時等を踏まえ連携を強化しております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フロアに足を踏み入れると、利用者と職員が体操をしている姿がとても楽しそうで、笑われた一体感がありました。本年から併設デイサービスに加えてもらい始めたパワーで表情が豊かになったと聞き、またやる気や頑張り運動機能回復を支えていることへの取り組みで日課のように通う人がいることは頷けます。町内会長や婦人会、中学生体験、ボランティアによる陶芸教室・フラワーアレンジメント・大正琴と、地域交流が個別ケアを進める職員を支えています。また防災では年々リスク対応メニューが増し、婦人部の炊き出し応援は定着し、トイレのポリタンクには水が保管されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」に沿って日々の業務に取り組んでいる	理念は見やすい場所に貼られ、毎月の委員会で湖山ケアに基づいたチェックがおこなわれ、浸透が図られています。また新規採用者も早い段階から法人研修によって行動について省みる機会があります。	「朝礼時の唱和を復活させたい」とのことは、ぜひ実現を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、わかば祭り等での交流、防災訓練の時は町内会長、婦人部の方達が手伝いに来て炊き出し等をして頂ける	万畑祭りには利用者も「花(飾り)を作る」という形で参画していて、山車が立ち寄ってくれます。事業所のまつりにも町内会長をはじめボランティアの応援が得られ、出店には家族連れも集まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りのお花作りを入居者様が行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度は開催し町内会長、民生委員、地域包括の方が参加して頂き、状況報告を行っている 家族の参加は少ない	「全員参加」を目標に家族に募っています。成果がみられず平日を土日開催に変えたところ、やや向上しているため引き続きおこなう予定で、土日でも地域包括支援センター職員は快く応じてくれ助かっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて運営状況や空き状況の報告を行っている	運営推進会議に出席くださるため、空き状況をはじめ報告が定期で叶っています。看取りについて相談したときは解釈の違いが勉強になり、細かいこともやりとりする重要性を改めて受け止めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会に参加し知識を深めている 玄関の施錠は夜間のみで日中は出入り自由である	新入社員研修、外部研修や法人内研修と多面的に学習の機会があり、全体会議または委員会で全職員に浸透させています。身体拘束を必要とする症状や徘徊もありませんし、鍵をかけることはほとんどなく夜間防犯上の都合で施錠するのみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し知識を深めている 虐待が起きないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の参加により知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改訂時、解約時に必ず十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には可能な限りカンファレンスに参加してもらっている ご家族からは、面会時等に要望を聞いている	法人アンケートの回収率は85%と高く、家族は協力的です。「散歩を増やして」との家族意見は心身状態を加味し外気浴をおこない、毎月の「わかばだより」の誕生会での写真は家族から喜びの電話が入っています。	職員が交替すると不安に感ずる家族もいます。安心を感ずることのできる工夫、例えば新人職員の挨拶の徹底などを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、全体会議、委員会にて職員の意見を聞いている	ISO委員会、事故対策委員会等役割と責任が明確にあり、事例検討を通じて提言が挙がっています。感染症の勉強会では看護師が講師を務めるとの事例からもそれぞれの力を十分発揮していることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいの持てる職場環境作り努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修への参加が出来るように調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問等は出来ていないが市内のGH会議に出席し情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に困っている事、不安な事等を聞いている、言葉で伝えられない事もあるのでご本人の行動に留意している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちや要望を聞いて不安を取りのぞける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様にも役割を持って頂き得意分野を生かす様している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有、交換を図り、ご本人様の状況を把握している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出は自由出来る様支援している(ご家族の許可の範囲で)	友人をはじめ以前近所に住んでいた人も訪れ、面会者と連れ立って墓参にでかける利用者もいます。職員も想いを汲んで受診帰りに自宅近くを廻ることもあり、また家族の支援を得て散髪屋通いが続く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が自由に関わり合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望は日々の会話等で聞き出来る範囲で実現出来る様にしている	主訴がしっかりした人は「今日はなにがしたい」とか「欲しいものがあるから家に電話して」と気軽に声をかけてもらえています。担当制で職員も気配りでき、また本人も気安いため関係が築きやすくなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き取り、又はご本人に伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はして頂いている、マイペースで過ごされていると思う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを行いプランに反映させている	オリジナルで介護記録用紙を作成して使いやすい、特に目標の達成がわかるようになっていきます。家族の面会に合わせてカンファレンスを行い、可能な限り職員も参加して意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入、申し送りでの情報共有をし介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	DSでの体操やパワリハ、陶芸教室に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事で出来る所は協力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診があり24時間365日対応してくれている	協力医には24時間オンコールで対応してもらえ、全員が月2回の往診を受けています。“医療と福祉の創造、は職員の胸に刻まれ、諸所対応に生きるなか、専門科目等に通う場合には職員が送迎をおこなうこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師との連携は取れている、特変時には指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、退院後の対応について医療機関と連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について書面にて説明している、職員も勉強会に参加、終末期(看取り)のケアについて学んでいる	当初は看取りを希望していても折々の変化で療養型に移設するケースもありますが、医療連携加算をとりターミナルケアに前向きに取り組んでいます。勉強会での知識学習をベースに、実践では水分摂取量や排泄状態を細かく記録しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加して学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している	年2回の防災訓練は夜間、日中を其々想定し、備蓄は炊き出しで消費のうえ毎年新しい食糧が4日分用意され、地域の人とも集まり婦人部の炊き出し応援は定着しています。トイレのポリタンクには有事の水を保管しています。	大型備品の転倒防止対策がさらに推進されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意し個々に合った対応を心掛けている	年間研修に接遇を位置付け、居室は利用者の家という考えをもって「失礼します」と声をかけることを習慣としています。扉の開閉も他者の眼に留意しておこない、身だしなみも好感がもたれるものという点に注視しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から希望を聞いている 自己決定しやすい環境作りに努めている 自己で表現できない人には寄り添うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペース過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院が定期的に訪問してくれており身だしなみは出来ている 好みの衣類を選んで自由に着用されている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、下ごしらえ等手伝ってくださっている お客様の希望もメニューに取り入れるようにしている	法人の管理栄養士の助言を得て食事バランスを図っています。その人の意欲とADLに応じて野菜の下処理を手伝ってもらっていて、嗜好調査では寿司が人気で、お節料理や年越し蕎麦といった時節料理も提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録している、個々に合わせた状態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックを付け個々の排泄パターンを把握し1人1人に合った支援を行っている	トイレ誘導は時間を決めず大半の利用者が自ら行け、尿意を感じることもできます。そのためトイレの間隔が空いた場合は声をかけ、また排泄時はトイレを確認し状態を把握しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分なし水分量の確保、軽体操実施、牛乳の飲用を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出等にて入浴出来ない時は曜日を変えて対応している	浴剤を多品種揃え選ぶ愉しみを加え、皮膚の弱い人用のものも配されています。週に3回ほどの頻度ですが、要望があれば毎日も可能です。手すりが万遍なく配され、湯は入れ替えではなくオーバーフローです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人マイペースに過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず飲み込んだか確認している 看護師とも連携し変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを持って生活出来る様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴を行っている 遠方への外出はご家族に協力してもらっている	食材を業者が届けてくれるようになったため、敢えて個別にでかけ100円均一の店では飴や好みの菓子を買います。ボランティア来訪の大正琴の演奏会が伊東観光会館であり、誘い合って家族とともに鑑賞した人もいます。	散歩や外気浴は心身状態によって格差が起きないように記録をとることを期待します。また、外出企画は大勢での移動が難しい場合は個別をさらに進めることを検討ください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の、おこづかいで必要な物は購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な事情がない限り自由にやり取り出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に壁画の装飾を変えて季節感を出している	大掲示板は季節が伝わるよう毎月貼替え、廊下にもたくさんさんの貼り絵があります。スケジュール表も大きな用紙を使っていて利用者の目線や視界へ配慮があります。避難経路図も各階に掲示され、大切なことは周知できるよう図られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は、自由な席に座って頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物を持ち込んで頂いている	居室は毎日欠かさず職員が掃除しているため清潔で、塵ひとつありません。慣れ親しんだタンスやベッドが置かれ、カーテンも持ち込みのため一人ひとりの個性が感じられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し安全に移動できる、車椅子の方もゆとりを持って入れるトイレの大きさ		